

みんなの健康ラジオ

『妊娠中のりんご病ウイルス感染』

(2025年7月31日放送)

横浜市産婦人科医会

あおのウイメンズクリニック

青野 一則

りんご病（伝染性紅斑）とは

- 「ヒトパルボウイルスB19」の感染が原因
- 感染10～20日後に現れる両頬の紅斑が特徴的、
- 両頬に紅斑が出る7～10日前が他人への感染力が高い
⇒症状が出てからの隔離は無意味
- 小児期の感染が多い
- 鼻汁、唾液、痰などからの飛沫感染、接触感染
- 無症候感染も多いが、大人は頭痛、関節痛等が起きることもある
- 一度感染すると終生免疫で抗体が持続

妊婦が感染したら？①

- 妊婦の抗体保有率は20～50%

妊娠中の初感染の診断は血中抗体価による

⇒ しかし感染時期がはっきりしないこともある

- 妊娠中の初感染妊婦の20%で胎児感染が成立
さらにその20%に貧血による胸水・腹水、心不全等が出現
⇒ 妊娠中の初感染で胎児に症状が出るのは4%
- 感染した妊娠週数が早いほど胎児への影響が大きい
⇒ 特に妊娠前半期は流産・死産になることもある
妊娠28週以降の感染では通常胎児への影響はない
- 母親の感染時期から9週間なにも起こらなければその後に胎児に影響が出ることはない

妊婦が感染したら？②

- 妊娠中の胎児感染が疑われる場合
 - ⇒妊娠28週以前では1～2週ごとに胎児エコー
胸水、腹水、皮下浮腫、心拡大、胎児血流等を検査
- 胎児に上記のような所見を認める場合は専門病院に紹介
 - ⇒必要により胎児輸血等が行われる
治療が不可能な場合や予後不良な場合もある
- 胎内感染した胎児に異常が起きなかった場合、
または治療や経過観察で治癒した場合
 - ⇒生後の児に奇形その他の異常、後遺症の影響はない

妊婦の初感染を防ぐために

- 「ヒトパルボウイルスB19」 予防のワクチンはない
- 小児からの感染は唾液や痰、鼻水などからが多い
特にお子様を持つ方や子供と接する仕事をしている方
⇒ マスクやうがい、手洗いを入念に行う
子供とのキス、子供との食器の共有を避ける
- 感染した場合の治療法は、対症療法のみ
症状が出ている児は既に人にうつす時期を過ぎている
⇒ 特に流行時期は日ごろからの感染予防の意識が重要